

貞丈雜記

三之上

大政官文庫			
三	一	一	和
二	〇	三	書
冊	函	七	門
	架	五	
		號	

内閣文庫			
二	一	和	
函	三	書	
二	七	門	
架	五	類	
	冊	號	

(五 一)

内閣文庫	
番號	和 11375
冊數	32 (5)
函號	212 16



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



原本の文字など不明瞭な箇所があり

- 一 装束下の小袖
- 一 八徳の事
- 一 足袋之事
- 一 たゞの織物
- 一 ろ川の人はむぎ
- 一 かけもえき
- 一 あるふ紬
- 一 無紋之小袖
- 一 せうふ油布
- 一 紅地白の事
- 一 胴服之事
- 一 羽織之事
- 一 御小袖と御服之事
- 一 嶋織物
- 一 加賀梅漬
- 一 遠江あうぬ
- 一 丸すじ
- 一 かしん色の事ニヶ茶
- 一 たうぬの事
- 一 箔もやうの事

- 一 襟をあはく事
- 一 ニッ襟三ッ襟よ着ふ事
- 一 大あり着
- 一 木綿之事
- 一 板の物と云事
- 一 とのあもの事
- 一 むしろの事
- 一 もろけき之事
- 一 女の帯古今相違
- 一 幸ひ乃事
- 一 五人をさす事
- 一 僧綱く之事圖
- 一 唐織物と唐織
- 一 婚禮葬禮白小袖
- 一 蒲團之事ニヶ茶
- 一 合羽之事
- 一 産衣之事
- 一 振袖留袖之事

雑記

見

一下にカミ下み帯

一肌乃帯

一犢鼻褌之事

一手綱乃事

一あゝり染

一白衣之事

一頭巾之事

一白かゞゞの事

一紋縫目付

一目結の事

一物んぞり事

一女のたふさぎの事

一今木之事

一取染之事

一かほき乃事

一染付小袖の事

一あめてり頭巾

一袷目花色小袖

一段金と云事

一村濃之事

一申濃の事

一よめ君衣装之事 圖

一筒袖之事

一みどり色乃事

一うす紫の事

一ちねど色

一真紅

一いろこ形

一腰巻之事

一衾之事

雜記三

一纈纈乃事

一襠褌之事

一滋目結之事

一うれあるの事

一あけと云事

一薄墨色

一うちわけ乃事

一小袖一重と云事

一寶盡

一かつきの圖

自三

腰卷之圖

天子御紋之事

紙衣之事

家の紋と云事

かえぎ色の事

嶋より之事

巻染之事

きむらぎと云事

小児綿入不着事

素服乃事

宿衣之事

八丈絹

帖絹卷絹

袖あり事

染色の事

小袖を丸物と云

無紋之小袖

かゝる筋

紺

赤鳥乃事

摺の小袖

さうけ色

大身かひり之事

うらおき物

十九乃布

花の事

大樹小樹衣袍

あさぎ色二品あり事

より衣之事

帷子のワカカキ

色

奥布

上古結四品有事

- 一 升頭巾
- 一 両々ねあお筋
- 一 かいきんぐらと云事
- 一 ぬき白の事
- 一 目結鹿子
- 一 附帯之事
- 一 重陽小袖之事
- 一 紫裏之事
- 一 けつゆの帷子

- 一 みる山
- 一 地赤地黒地白
- 一 すねごんの事
- 一 段乃物
- 一 朽葉色檜皮色
- 一 茶屋染之事
- 一 たすき乃事
- 一 不ゆの小袖之事















烏帽子之部







- 一 古の烏帽子之事
- 一 縁塗乃事
- 一 風折あほ
- 一 平禮
- 一 梨子打
- 一 柳さび
- 一 圭古の折烏帽子
- 一 小ゆきの事

- 一 さびの事
- 一 立あほ
- 一 多あほの眉事
- 一 軍陣もみあほ
- 一 引立
- 一 横あび
- 一 今乃折あほ
- 一 てりあけ之事

雑記三

目五

- 一 小ぢひの仕様 
- 一 小ぢひの仕掛の事 
- 一 紫皮のあはれ 
- 一 紫革の烏帽子 
- 一 ぼつつけのくさげ 
- 一 組ひる烏帽子 
- 一 長小結の事 ニヶ条 圖
- 一 折烏帽子の時の装束之事 
- 一 公方様御烏帽子 
- 一 細あはれ 
- 一 軍陣烏帽子 
- 一 横さし折あはれ 
- 一 引入あはれ之事 
- 一 あはれ 
- 一 あはれの烏帽子 

- 一 長あはれ 
- 一 立烏帽子恰好 
- 一 立あはれ名所 
- 一 長小結黒皆と云事 
- 一 烏帽子あはれの事 
- 一 あはれぬり様の事 

以上

あり也

一 福里ぬきと云ハ福の名あり福の之を糸を生糸と云
ぬきをハぬり糸より織りたる物也福りぬきと云也
ぬハ文字ハ練債チリヌキと書くも昔より練債
とも書来れり昔ハ文字ハ吟味も書く用たる
多し此は福りぬきと云ハ福りぬきのハ福
里ぬきと云ハ二の品あり此らのぬりぬきを今ハ福
らのハ糸と云ハぬりぬきと云ハ今ハのハぬ
りぬり也ハ糸と云ハ福のハぬりぬきと云ハ
を今云ハ福のハ糸と云ハ糸と云ハ糸と云ハ

大素柱末ニ練債トナリ

一 糸ハ福りぬきハ昔ハ男も女も着る物也のハぬ
りぬきハ男の着る物也糸ハ福成以古実と云
のハ糸乃事男着の年より今人の自然ぬりぬ
りぬ女着の年ハ糸ハ五月五日の午時
まぐれハ糸ハ後ぬりぬきと云ハ
身丈云今ハ將軍家より糸御定より侍従の上ハ糸
らを用を糸と云ハ糸ハ糸を用也糸ハ糸ハ
其時代ハ糸御定より糸御定ハ糸御定ハ糸御定
一 福りぬきハ糸御定ハ糸御定ハ糸御定ハ糸御定
ぬき向糸御定の糸御定あり左記す

藤中旧記云紅梅
又キノロ廿八マ
チメシカ

貞順女房衣装次
方云ひとつまが
とひこきぶくの
筋と又うすきべ
みのすぢを二
まぢう際すい

これある筋と云ハ地色ハ何れも紅の横筋を織る
御供古実云紅筋の事男八十四五歳までい云是
も織筋の肉也

ひとつまげともあそり云と川あせとも云ハ紅梅の筋
とぬき白の筋と一ツまげも織る紅梅ぬき白とあ方のまぢう云云御供古実云云か
きる汁可有忌用ハ女房前年あけても用云

右うりしより以下皆初りぬきハ織物也是ハ織物と
云也御成次方古実云男前ハ織物といふずるす
あ〜〜但下い〜思ハ也云織筋と云ハ織物の部
まハ入〜る也蜷川記云初りすぢを二まぢうきよ

今腰うりし腰あきあ〜〜の〜の腰ハ針筋を付
織ハ古の織筋を腰にならる織る也古ハ〜り腰
あきあ〜云事ハ〜物ハ筋を織り〜あり

今世婚禮の時腰うりし腰あきあ〜云名乃輿り
〜あきあ〜とろふ似〜る織忌〜無地の〜物
を忘す〜無地の〜物筋を織〜ぬ初りぬき

也昔腰うりし腰あき無地の〜めあ〜云事ハ〜
〜也末の世は〜の事ハ〜りあ〜法式

〜あ〜也

永享六年二月廿七日又七夜御祝山名右赤門管入道常服道服ニテ参勤物産不日記ニ見コトハ道服御免ニテ着セラハ也

つとぎぬのす装
ノ部ニモ記

りり也道服と云物ハ別也道服ハ腰より下まであり
僧の衣に似たる物也公家大納言以上の人内々あり
せむも物也夏用ニてさうり下ハ白袴あり

一 八徳と云物あり嵯川記云か衣の上をのりて又さ
うとぎぬあど打つけ喪人の以前々事ソクともさ
ハ也とあり八徳と云胸服の事あり一ハ形十徳似
るものハ徳と長名を付くる成俗一
十徳のすハ装
木の形ニテス
うとぎぬ

ぬと云革羽織の事あり一
一 羽織と云ハハ鳥の羽を織るもの名也一
ハ也と云ハハ鳥の羽を織るもの名也一
ハ也と云ハハ鳥の羽を織るもの名也一
ハ也と云ハハ鳥の羽を織るもの名也一

子見えず小袖等と云上をさうりうけのものを
一 足袋の事 蠟川記云殿中ハ御免のつぐハ
ハ御免の時ハ必上のハ足袋一足中ハ又入道同服ハ
ハ御免の時ハ必上のハ足袋一足中ハ又入道同服ハ
ハ御免の時ハ必上のハ足袋一足中ハ又入道同服ハ

武雜記云足袋の
る殿中ハハ御免
ハ御免の時ハ必
ハ御免の時ハ必
ハ御免の時ハ必

ハ御免の時ハ必上のハ足袋一足中ハ又入道同服ハ
ハ御免の時ハ必上のハ足袋一足中ハ又入道同服ハ
ハ御免の時ハ必上のハ足袋一足中ハ又入道同服ハ

于傳也足袋ノ如クニテ其ノ物也
 一内東一モ憚ラズハカナル也
 室町記云新制永
 正徳年織年織
 但難未及此餘於
 可謂百華織草矣
 一見タリ又足袋
 二摸撫付レモ有
 一見エテ御産所
 日記ニ寛正七年
 十二月廿二日所
 所録ヨリ歩足袋
 一被下文ツタ歳
 世ニ也ト見エタ
 一収トハモヤウ
 ノ事也ヤウツツ
 一伊勢守貞國ノ
 二伊勢守貞國ノ
 画像藏メタリ其
 一収トハモヤウ
 ハキレテ見エタ

皮の足袋武雜記卷一十月朔日よりなき翌年の二

月并りあり但之月ゆゑなき事不昔い

貞丈云古ハ革足袋也今の木綿足袋古ハ一八九十

年計も以て是ハ女も紫革の足袋を多く世成時

ある由古老乃物語一けと也

一歩小袖と云ふ袖りぬき此事也又脚服三常の小袖の事也

と云ふは書あり小袖と脚服と云ふ差別ある事也

一旧記また云織物とあるハ練愛の事也一こゝろ

との類を云ふ袖りぬきの事也二記云唐の織物と對

する織物と云用害記云この物り物の事脚免

らるゆゑの事也又云はるすあどめい

をハ其も其也一ゆゑハ女中もめい

一鳩おり物と旧記はあゝ諸方の鳩二より織出

今もハ丈鳩より織出ス也筋を織三る物也

貞丈云今織物の筋あるを鳩と云ハ鳩四より織出

筋を織る鳩と云ある五今の人ハ筋の事を鳩と云

也

一布川人法むきと云物旧記はあり此絹六とも存又

布川人法むきと云物旧記はあり此絹とも存又

布川人法むきと云物旧記はあり此絹とも存又

一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出

一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出
 一丈鳩ヨリ出

記しめんめんあまういののみ本綿と書しめんめんといふ
む也下むト五音通す。お古いめんめんといふ也。

一か織物かかおまゝに別也か織物をか物とも云也キニ

補子ラントニス、レユス、アヤニシキ縹錦ヒナヒメに外きく唐のり渡りくる物に皆織物

也か織は日あす織也地は生糸を紋うふ五色の糸

金糸等を織りて浮織はあくる物也唐の糸を織物

かかかかか也

一板の物とも巻物に付て云名也織物を巻くるを巻物

とも云ふはす板を今に云くたはる板の物とも

也武雑記の昔のどんき巻物にぞあくるは今に

巻物すまゝありてんすも上古の板の物ありしは

は巻物ありてんすまゝありしは

まゝありしは何れも板の物を巻くもあつて板の物

とも云ふ織物の物を一層一層蜷川記はあつて板の物

板とも云ふすき板の物あつて板の物とも云ふか

織の厚さとも云ふすきと云ふ也

一婚禮は向ふ小袖を用ふ幸葬禮の禁の也今世は

人ありてあやまり也葬は白色を用ふるは

あまの美ビ、レイ、サイ、シキ麗彩色イロトリをもあつて物をうはるを

あつて也婚は白色を用ふるは婚は人倫の大は白を

白色の大巾也故は白色を用ふ也用ふは白色の同
くも本意の同くも又慶の村白色用ふ也
も婚禮の同くも

一 どのぬいと結と云ふ今の夜具の事也又杉入をも云也その
ぬ物に袖の下に結びありその服は六七寸のふきを付る也
婚入記もあり名合へて後傳の武雜記の貞丈抄記に也
そのぬ物に袋は入さず也
これをそのぬ物の袋と云

一 小物入りとも云ふはぬ物に事也帯の小袖の形ありゆき
けをいれくすも也そのぬ物の一名を物入りとも云ふそのぬ物
ありはちいさきか小物入りとも云ふ也

女房筆待云云
ありまのぬ物に
二つあり二つあり
二つあり二つあり
二つあり二つあり
二つあり二つあり
二つあり二つあり
二つあり二つあり
二つあり二つあり
二つあり二つあり

一 むしうらうら今の寝具の事也其の表は登りきり
る也古款はさうりすあや葉後のさむしうらにありま
あやのいばり也

一 御座をあるせし
しうらあやのいばり也
の絹付の表はあやのいばり也

一 りのぬ物に婚入記は名合へて後傳の武雜記に
貞丈抄記にあり

一 今の世に夜具の内は蒲團と云物あり古くは
蒲團と云物あり

一 蒲團と云物あり

東鑑曰股解トア
リモノ又キトヨ
ムヘン字拾遺
卷九才五条ニた
けとくおせら
こころのあり
いげりこ一五
十げりあり太
刀さきとぬき
まきとぬき
リ云
宗五祀ニそと
けきとあり

義經記卷ノ七直
ハの指す物ハ
さかきせし物
ハ尺のうけおび
五尺のうけおび
れふのうけお
とありけうけお
びハ今ノさけお
びあり
○中帯と云ハ白
小袖身よりけり
けせぬまあり

何やまり也夜のきねをく家まはるの物しりも御
すづりともきり由也古ハきき子のよまむらやまの寝る

ふまんの子や又調度
なり
ふまんの子や又調度
なり

もろさきと云ハ今の中世の事也古きやまんの事を
はきささるぬきと云ふなり物也そとまきと云ふ
をハと云ふと云也今もむらと云ふと云ふと云ふ
こあやまりと云也ハきさきの畧語也

蒲園の事存るも記さぬゆゑの事也東山殿の厨明相
阿弥の記ハこの物飾書ハ西指菴の納戸の内ニ曲録乃
上ノ蒲園也とあり是海産の事を云也

一合羽あひと云物古くあり物也合羽ハ近代の物也ソナハ侍も兼

城多しと云也奈ノ関書ニ御供の衣もこの物をめいとあり
うらと云ふ物也阿蘭陀の羽也阿蘭陀の人の上ニ着る衣服
まうつと云ふ物ありその形をまきと作りしを坊舎合
羽と云始ふと云うつと云ふといハ後ハ袖を付る合羽を
作り出さ始ふと云ふなり

古の女の帯今も帯の物と云ふ廣き物もあり狭き物も
あり物あり皆さし帯也貞衡云さけ帯ハ裳袴モハカマと云
物の帯も同しと云也ハと云ふ中も帯の子の紙を
へる上臈ハ惣松金もき也ハと云ふハあけしと云腰を色

ありまきとせす
さうまゆつち中
帯と云也さけ帯
を帯てのすのけ
げずるさま
小さく帯のわ
け少也かやハ
勝つさまあど
る

をうらうす紅梅あぶるあめをさるる分含みぐも也
裳袴はら家上臙装束の上の裳より小物をめす也裳を
先出時迄の小袴を裳袴とす也郷乃袴の也也袴
の下はすの帯と同いふさけ帯を作も也含み
きく一面の含みすの也あよりさるるあつてすひ下
体也け帯は地はあつたす板あつてあつて含み
さふもいふあけあも織する成る一糸の閑書よ古帯
さうさうのさるる慈照院殿代よりいさりいさりいさ
あゆ云いさりいさりいさりいさりいさりいさりいさ
あつてさるる織男女子よいさりいさりいさりいさり
女の帯の厚装束
の帯よあつす

一 ちんぎと云ふ名うさぎぬ也唐衣と書也うさぎぬ小兒
誕生時陰陽頭ランニヤウノカキ 陰陽師の作付られ小兒の性合をヨキ古
うんぐさうせうと色又滌くすの古法也然もさるる後
あき時ハ白と空色そらいろとを用る法也貞衡云也世系
もさるる花ぐさあつて縫ひの古いあつて事也
一 婚禮の時あめ君の衣裳ハ上ウパギ衣よさるるあつてを織る白
き後をさるる也嫁入記よいさりいさりいさりいさりいさり
き後とあるを句切クキリをさるるさるる衣装法ハ昔キよさるる
あつてとあるあつていさりいさりいさりいさりいさり
一 小袖はあつて袖とさるる昔ハあつて事也旧記よいさるる

す小児ハ陽氣^{チツ}はく人^{チツ}まう^{チツ}の^{チツ}熱氣^{チツ}をも^{チツ}く^{チツ}せ^{チツ}病^{チツ}を^{チツ}く^{チツ}ら^{チツ}
 らふ事あるが小袖の左の服袖の下に透子^{チツ}はを^{チツ}あ^{チツ}け^{チツ}て^{チツ}い^{チツ}
 きをぬら也袖を^{チツ}あ^{チツ}ら^{チツ}す^{チツ}ま^{チツ}の^{チツ}あ^{チツ}け^{チツ}て^{チツ}い^{チツ}き^{チツ}ぬ^{チツ}ら^{チツ}也^{チツ}
 簾中旧記よりきあけ^{チツ}て^{チツ}云^{チツ}事^{チツ}あり^{チツ}今^{チツ}ハ^{チツ}ツ^{チツ}ク^{チツ}あ^{チツ}
 ところきあけ^{チツ}の^{チツ}袖^{チツ}の^{チツ}下^{チツ}に^{チツ}透^{チツ}子^{チツ}を^{チツ}あ^{チツ}け^{チツ}て^{チツ}今^{チツ}の^{チツ}
 あり袖の短き物の類は^{チツ}より^{チツ}次^{チツ}別^{チツ}に^{チツ}袖^{チツ}を^{チツ}あ^{チツ}け^{チツ}て^{チツ}
 風流より^{チツ}も^{チツ}也^{チツ}實^{チツ}文^{チツ}年^{チツ}中^{チツ}の^{チツ}比^{チツ}延^{チツ}六^{チツ}女^{チツ}子^{チツ}の^{チツ}あり^{チツ}袖^{チツ}を^{チツ}尺^{チツ}五^{チツ}寸^{チツ}
 計あるを^{チツ}十^{チツ}六^{チツ}七^{チツ}歳^{チツ}の^{チツ}人^{チツ}を^{チツ}を^{チツ}比^{チツ}尺^{チツ}六^{チツ}寸^{チツ}あり^{チツ}袖^{チツ}を^{チツ}尺^{チツ}五^{チツ}寸^{チツ}
 長袖也と^{チツ}尺^{チツ}五^{チツ}寸^{チツ}の^{チツ}由^{チツ}古^{チツ}考^{チツ}物^{チツ}語^{チツ}也^{チツ}今^{チツ}ハ^{チツ}尺^{チツ}五^{チツ}寸^{チツ}あり^{チツ}
 尺^{チツ}五^{チツ}寸^{チツ}に^{チツ}成^{チツ}る^{チツ}也^{チツ}あり^{チツ}袖^{チツ}ハ^{チツ}尺^{チツ}五^{チツ}寸^{チツ}あり^{チツ}袖^{チツ}ハ^{チツ}尺^{チツ}五^{チツ}寸^{チツ}あり^{チツ}

兜の紐と云事也

接ふん^{チツ}の^{チツ}の^{チツ}の^{チツ}
 下^{チツ}第^{チツ}ト^{チツ}云^{チツ}の^{チツ}
 あり其^{チツ}書^{チツ}ニ^{チツ}ヨ^{チツ}リ^{チツ}
 ナ^{チツ}科^{チツ}簡^{チツ}ス^{チツ}ヘ^{チツ}シ^{チツ}源^{チツ}
 平^{チツ}盛^{チツ}衰^{チツ}記^{チツ}卷^{チツ}十^{チツ}六^{チツ}
 徑^{チツ}後^{チツ}布^{チツ}引^{チツ}ノ^{チツ}境^{チツ}よ^{チツ}
 入^{チツ}糸^{チツ}後^{チツ}ハ^{チツ}紐^{チツ}ヲ^{チツ}
 下^{チツ}第^{チツ}カ^{チツ}キ^{チツ}後^{チツ}作^{チツ}
 ノ^{チツ}二^{チツ}尺^{チツ}ハ^{チツ}寸^{チツ}ノ^{チツ}太^{チツ}
 刀^{チツ}隨^{チツ}分^{チツ}秘^{チツ}藏^{チツ}シ^{チツ}タ^{チツ}
 リ^{チツ}ケ^{チツ}ル^{チツ}ヲ^{チツ}ワ^{チツ}キ^{チツ}ニ^{チツ}
 ハ^{チツ}サ^{チツ}ン^{チツ}テ^{チツ}髪^{チツ}ヲ^{チツ}梳^{チツ}
 シ^{チツ}テ^{チツ}ワ^{チツ}ト^{チツ}入^{チツ}江^{チツ}此^{チツ}
 下^{チツ}第^{チツ}ハ^{チツ}フ^{チツ}ント^{チツ}シ^{チツ}
 ノ^{チツ}事^{チツ}ナ^{チツ}リ^{チツ}
 古今^{チツ}著^{チツ}聞^{チツ}集^{チツ}卷^{チツ}十^{チツ}
 馬^{チツ}藝^{チツ}ノ^{チツ}部^{チツ}ニ^{チツ}ク^{チツ}ヤ^{チツ}
 子^{チツ}ノ^{チツ}用^{チツ}云^{チツ}子^{チツ}ヤ^{チツ}カ^{チツ}
 子^{チツ}テ^{チツ}タ^{チツ}ウ^{チツ}サ^{チツ}キ^{チツ}ヲ^{チツ}
 ナ^{チツ}ン^{チツ}カ^{チツ}、^{チツ}レ^{チツ}タ^{チツ}リ^{チツ}
 同^{チツ}相^{チツ}模^{チツ}ノ^{チツ}部^{チツ}ニ^{チツ}タ^{チツ}
 午^{チツ}テ^{チツ}タ^{チツ}フ^{チツ}サ^{チツ}ギ^{チツ}カ^{チツ}
 キ^{チツ}テ^{チツ}子^{チツ}リ^{チツ}出^{チツ}タ^{チツ}リ^{チツ}
 宇^{チツ}治^{チツ}拾^{チツ}遺^{チツ}卷^{チツ}十^{チツ}二^{チツ}
 紐^{チツ}ハ^{チツ}髪^{チツ}後^{チツ}の^{チツ}日^{チツ}
 間^{チツ}ハ^{チツ}い^{チツ}ろ^{チツ}あり^{チツ}た^{チツ}

一 下^{チツ}第^{チツ}も^{チツ}う^{チツ}と^{チツ}下^{チツ}の^{チツ}帯^{チツ}と^{チツ}も^{チツ}云^{チツ}ハ^{チツ}小^{チツ}袖^{チツ}の^{チツ}上^{チツ}は^{チツ}後^{チツ}ハ^{チツ}帯^{チツ}也^{チツ}装^{チツ}
 束^{チツ}を^{チツ}あ^{チツ}す^{チツ}装^{チツ}束^{チツ}の^{チツ}下^{チツ}に^{チツ}あ^{チツ}る^{チツ}下^{チツ}に^{チツ}い^{チツ}る^{チツ}と^{チツ}下^{チツ}に^{チツ}帯^{チツ}と^{チツ}も^{チツ}云^{チツ}
 也^{チツ}下^{チツ}第^{チツ}も^{チツ}下^{チツ}の^{チツ}帯^{チツ}ハ^{チツ}古^{チツ}款^{チツ}也^{チツ}も^{チツ}う^{チツ}み^{チツ}う^{チツ}今^{チツ}俗^{チツ}ハ^{チツ}ふ^{チツ}ん^{チツ}ど^{チツ}ー^{チツ}の^{チツ}
 也^{チツ}下^{チツ}第^{チツ}も^{チツ}下^{チツ}の^{チツ}帯^{チツ}と^{チツ}も^{チツ}云^{チツ}ハ^{チツ}あ^{チツ}や^{チツ}ま^{チツ}り^{チツ}也^{チツ}
 一 ぬ^{チツ}ん^{チツ}ど^{チツ}ー^{チツ}ハ^{チツ}名^{チツ}也^{チツ}字^{チツ}ニ^{チツ}摺^{チツ}鼻^{チツ}禪^{チツ}と^{チツ}書^{チツ}け^{チツ}ど^{チツ}も^{チツ}非^{チツ}あり^{チツ}摺^{チツ}鼻^{チツ}禪^{チツ}、^{チツ}別^{チツ}
 古^{チツ}より^{チツ}此^{チツ}名^{チツ}也^{チツ}字^{チツ}ニ^{チツ}摺^{チツ}鼻^{チツ}禪^{チツ}と^{チツ}書^{チツ}け^{チツ}ど^{チツ}も^{チツ}非^{チツ}あり^{チツ}摺^{チツ}鼻^{チツ}禪^{チツ}、^{チツ}別^{チツ}
 あり^{チツ}今^{チツ}も^{チツ}房^{チツ}州^{チツ}の^{チツ}人^{チツ}ハ^{チツ}た^{チツ}ら^{チツ}も^{チツ}云^{チツ}と^{チツ}也^{チツ}田^{チツ}舎^{チツ}の^{チツ}も^{チツ}云^{チツ}と^{チツ}也^{チツ}
 り^{チツ}て^{チツ}存^{チツ}也^{チツ}も^{チツ}あ^{チツ}る^{チツ}也^{チツ}も^{チツ}あ^{チツ}る^{チツ}也^{チツ}も^{チツ}あ^{チツ}る^{チツ}也^{チツ}も^{チツ}あ^{チツ}る^{チツ}也^{チツ}も^{チツ}あ^{チツ}る^{チツ}也^{チツ}
 一 帯^{チツ}を^{チツ}あ^{チツ}の^{チツ}代^{チツ}り^{チツ}と^{チツ}留^{チツ}布^{チツ}を^{チツ}う^{チツ}く^{チツ}す^{チツ}あ^{チツ}ら^{チツ}も^{チツ}云^{チツ}と^{チツ}也^{チツ}手^{チツ}ノ

人びと云物古いた川あとも義貞記曾我物語
よたりのありありむらさきおびし

以異阿兜虫、いひ又依盛衰記三ツリ前二記スむらさきおびしとも云物也皆こゝろさきこの事

也唐韻は松小禪也とも唐ふつハ松中禪の歎み日ハ此

たふさきま合ねとも和名抄ハ松ハ禪の下まらしく物日

かのたふさきハ禪の下かく物あるも義理をあらそくハ此

字似用る也

一 今本ハ湯巻イマキ同物也イハコトニ音相通故ユマキヲイマキト云ナリ大江山ハユ

ルニ同 東鑑卷四十一建長四年壬子四月一日ノ条ニ湯小袖十

具御大口一ツ唐織物御衣一領御朋衣一今本一ツ下畧又榮花

物語初花辨ハ寛弘五年九月十日中興
彰子様一條院ヲ生ニタマフ条ニ云湯ゆりの酉の時とあり

紫式部日記云法
ゆりのハ掌おの
君ハかくゆハ

中 女房ハふ白き装束ハもあつてゆゆのハいまきさかハい

同ハ事也ハ禁秘抄恒例毎日
決篇ノ篇早旦供湯タニ湯主殿ユツトノ官人奉行

近代奏九ノ釜殿運湯ハ中ハ九禁中ハ着湯キルハ卷上ハ膳一人ハ典侍一人也

是候御湯殿故也ハ壺井義知ヨシトモ力校正ノ禁秘抄ニ湯巻

傍ワニ白生衣ト注シタリ貞丈云天子御湯ヲ召ス時上膳一人典侍一人ノ典侍ハナリ
御湯ヲメサスルニ常ノ衣ノ上ニ白キ生絹ノ衣ヲ着テ御

湯アアヒセ奉ル也其白キ生絹ノ衣ヲ湯巻トモイマキトモ云也

一 舊記乃中ハ子綱ハ事あり馬ハのハ子綱ハの事ありあつ

たふさきの事也たふさきハ今
あふさきハ古兵服ハの歎ハあふさき綱ハあり

たふさきの事ハかゆハ體源抄ハ云書ハ樂人豊原ハ義家ハ

朝臣の鏡ハの次ハを記ハしハるハ条ハ方ハ一ハ子綱ハ方ハ二ハ小袖

紫式部日記云法
ゆりのハ掌おの
君ハかくゆハ

紫式部日記云法
ゆりのハ掌おの
君ハかくゆハ

古より三つ折の
袖はあつた也
今も三つ折の
袖はあつた也
今も三つ折の
袖はあつた也

藍染記卷十三前
ノ右時ハ所藤ヲ
半巻上テ大口ハ

カリニ白衣ニテ
長押ニ風カケテ
下アリ

びりりきり古き後よんきり今も袖をさげりり

也つきの多しぬい帯の小袖はきりりあり形を考へり

て裁也きりりきりりかきりりきりり為也江戸より今も

川きりり事ありきりり昔岩間ハらり浪人十八歳ありり松平

伊豆守を恨る事ありり袖はきりりかきりりきりり迎付り女

のきりり伊豆守を討んとせりりあきりり加関東よりりきり

を林ありり也依りりきりり物を用ひきりり女ありりあ

きりりきりりり由ありり老人の物語りりり也 カツキノ
末ニアリ

一禮服をきりりり 礼服といふは小袖の上
きりりあきりりりり也 びりりきりり事 びりり

らありり白衣と書也公家家の平服ハありり カ
ハ

ナツレ 衣よりハ装束をきりりハきりりぬきりりり後をきりり

あり小袖ハ白小袖也びりりきりりり ハ
ハ

ぬきりりきりり衣をきりり ハ
ハ

袖をありり ヒヤク
ユ

うきりり ハ
ハ

ずりり ハ
ハ

びりり ハ
ハ

白衣と ハ
ハ

いりり ハ
ハ


一そのは ハ
ハ

雜記三

二十

目録ノ目ハ五ノ
ノヤイノ目也

金の金花字ハ子の字を書くとくあやまりて金の字が書くとく
形見ハ一箇合ニ品也

一目結メユイと云はる形  如長目の形メユイの如く也是をいふもあはじ又

ハあはじては深も也是を深も大絹をつまみあげ糸を結

て深も後糸をさげ糸のあはじりたる糸白く成て左の如く

目の輪もあは目結と云也右は目結メユイの深物白星まぐらに

あはて鹿の子は毛皮小似たる如かのあは也云也云云

唐乃子也又佐々木氏の家ハ紋を云川名田ひと云と云

の目ゆを写り並へ多る如四目結と云也 あは目ゆの
の事未記ス

一 村濃ムラノと云は地を云落ウスと云は又村雲ムラクモのことと云何色も云也

夫木坂快玄法師
ノ教 菅田順ソ
甲山ノヨシヨシ
をハハハハハハハ
らと云云云
又夫木坂ハみん
あはははははは
いとよりららら
ははははははは
と云云云云云

奥丈云 顔飾ハニ
まフキクトチト
ヨムニモ子細ア
ルベシ 顔飾のま
あははハ水干長
飾あはのきくも
ちのあはの如く
丸くあはり深も
あはハハハハハ
くともハハハハ
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ
ハハハハハハハ

を濃く深も也紺むと云紺色を云村濃を云と云也濃と云

み端ハ煙のじと云川す也 紫の山と云あは地を云すあははは

一 此をごと云ハ何色も云也此の色を云すはと云すはの方を

ハ濃く深もを云也禮の紅すを云紫すを云右の云也禮ハ

かぶとを遠るもあはハハの趣ハ軍用記もあるするはハ墨と

一 顔飾カウケツと云はるハ深の事也今時あはり深もハ物也大志

何りを云あるハ顔飾の二字を云と云はるハあはあ

り也ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

一 婚禮の村ハ多君の衣装を云はるハハハハハハハハハハハ

ハあやを云すハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

あけのめか今ハ
あけのめか今ハ
夫大徳云深伸正
ノ物、あけのめか今ハ
けあひかうと思
ひ、あけのめか今ハ
あけのめか今ハ

わらわをあけのめ
紅又ハ唐紅ト書
也唐土ヨリ傳レ
ト云物、あけのめ
あけのめか今ハ
のとき色、あけのめ
あけのめか今ハ
ト云也、あけのめ
あけのめか今ハ
あけのめか今ハ
あけのめか今ハ

地下ノ女ノウチ
カケスルハ公家
ニテ女房ノ小ウ
チキト云フモノ
ヨウチカケタル
舞ヲマナブモノ
ナリ

わらわの小袖のどろろ縫也ウラナギ産衣キソムルをナヤケエ初ハツメをハツメ男衣オトコエのハツメ也

あけのめか今ハシケメユイ法目シケメユイ然シケメユイと書シケメユイ也シケメユイ目法シケメユイをシケメユイあシケメユイげシケメユイくシケメユイ深シケメユイくシケメユイをシケメユイ云シケメユイ法シケメユイ

目法シケメユイのシケメユイ禮シケメユイ虫シケメユイ垂シケメユイあシケメユイくシケメユイ云シケメユイハシケメユイ女シケメユイ子シケメユイ也シケメユイ 目法のウハあシケメユイけシケメユイのシケメユイ色シケメユイ也シケメユイ

みどり色シケメユイ云シケメユイハシケメユイもシケメユイろシケメユイぎシケメユイ色シケメユイのシケメユイ身シケメユイ也シケメユイ淺シケメユイみシケメユイどりシケメユイとシケメユイ云シケメユイハシケメユイ入シケメユイきシケメユイのシケメユイすシケメユイ

き也シケメユイあシケメユイくシケメユイみシケメユイどりシケメユイハシケメユイもシケメユイろシケメユイぎシケメユイ色シケメユイのシケメユイ身シケメユイ也シケメユイ

くれあシケメユイのシケメユイ赤シケメユイきシケメユイ色シケメユイ也シケメユイくシケメユイらシケメユイくシケメユイをシケメユイあシケメユイいシケメユイハシケメユイもシケメユイ色シケメユイ也シケメユイあシケメユイきシケメユイくシケメユイれシケメユイあシケメユイい

ハ紅シケメユイ乃シケメユイ色シケメユイあシケメユイくシケメユイくシケメユイをシケメユイあシケメユイいシケメユイハシケメユイもシケメユイ色シケメユイ也シケメユイあシケメユイきシケメユイくシケメユイれシケメユイあシケメユイい

うすシケメユイむシケメユイぎシケメユイ色シケメユイハシケメユイ淺シケメユイ色シケメユイ也シケメユイくシケメユイらシケメユイくシケメユイをシケメユイあシケメユイいシケメユイハシケメユイもシケメユイ色シケメユイ也シケメユイあシケメユイきシケメユイくシケメユイれシケメユイあシケメユイい

くシケメユイらシケメユイくシケメユイをシケメユイあシケメユイいシケメユイハシケメユイもシケメユイ色シケメユイ也シケメユイあシケメユイきシケメユイくシケメユイれシケメユイあシケメユイい

あシケメユイけシケメユイのシケメユイ字シケメユイをシケメユイあシケメユイけシケメユイトシケメユイ云シケメユイハシケメユイ紅シケメユイ深シケメユイ

也

くシケメユイらシケメユイくシケメユイをシケメユイあシケメユイいシケメユイハシケメユイもシケメユイ色シケメユイ也シケメユイあシケメユイきシケメユイくシケメユイれシケメユイあシケメユイい

うすシケメユイむシケメユイぎシケメユイ色シケメユイハシケメユイ淺シケメユイ色シケメユイ也シケメユイくシケメユイらシケメユイくシケメユイをシケメユイあシケメユイいシケメユイハシケメユイもシケメユイ色シケメユイ也シケメユイあシケメユイきシケメユイくシケメユイれシケメユイあシケメユイい

真紅シケメユイトシケメユイ云シケメユイハシケメユイもシケメユイろシケメユイぎシケメユイ色シケメユイのシケメユイ身シケメユイ也シケメユイ

深シケメユイのシケメユイ似シケメユイセシケメユイ物シケメユイあシケメユイるシケメユイあシケメユイりシケメユイ人シケメユイのシケメユイ紅シケメユイ深シケメユイとシケメユイそのシケメユイをシケメユイ真紅シケメユイトシケメユイ云シケメユイ

女シケメユイのシケメユイ帯シケメユイ云シケメユイハシケメユイもシケメユイろシケメユイぎシケメユイ色シケメユイのシケメユイ身シケメユイ也シケメユイ

赤シケメユイ大シケメユイ坂シケメユイあシケメユイるシケメユイ人シケメユイハシケメユイもシケメユイろシケメユイぎシケメユイ色シケメユイのシケメユイ身シケメユイ也シケメユイ

あシケメユイくシケメユイらシケメユイくシケメユイをシケメユイあシケメユイいシケメユイハシケメユイもシケメユイ色シケメユイ也シケメユイあシケメユイきシケメユイくシケメユイれシケメユイあシケメユイい

あシケメユイくシケメユイらシケメユイくシケメユイをシケメユイあシケメユイいシケメユイハシケメユイもシケメユイ色シケメユイ也シケメユイあシケメユイきシケメユイくシケメユイれシケメユイあシケメユイい

はすくせ左右の
 脇の脇を引立
 ぶすの脇を引立
 すの脇を引立

のしんは打上げく二層をぬいて腰を海くあり
貞丈云襟裏に用ひしハシラ

一 裳はくると云物を小児の衣服のまじりあざふ付り古き

あま事也裳つくと云古書云名くさる物あり近世ハ少袖

まも何れをも祝ひ物必裳そを用ふ也

一 婦人海 上古夜うぶりに寝る物也そのる物今のよき あま後子

出来たる物也ふすもとりふ字ハ念茲字也雅亮装束扱云云御

子法ハらきあるのうらくる袖キリツカらびあり廿八尺又ハのう五

の物也くひの方まくれあるの御りいしをフククスルふより

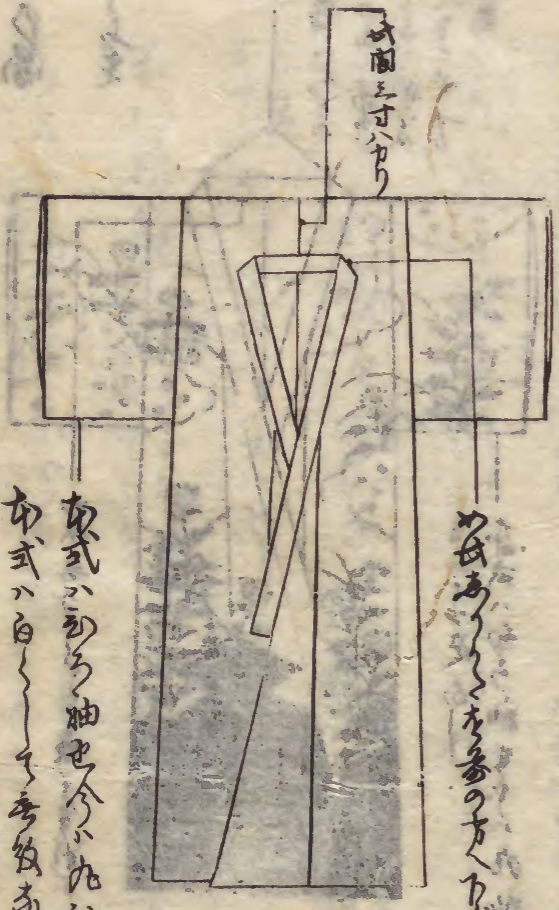
二 袴ありくさるるまらばりきぬふ也腰の方をくひし志

一 袴一 袴ありくさるるまらばりきぬふ也腰の方をくひし志

中此ハらきあるのうらくる御りあす海ハ袖ありきりつ袴の御

口角あり袴をくひし志

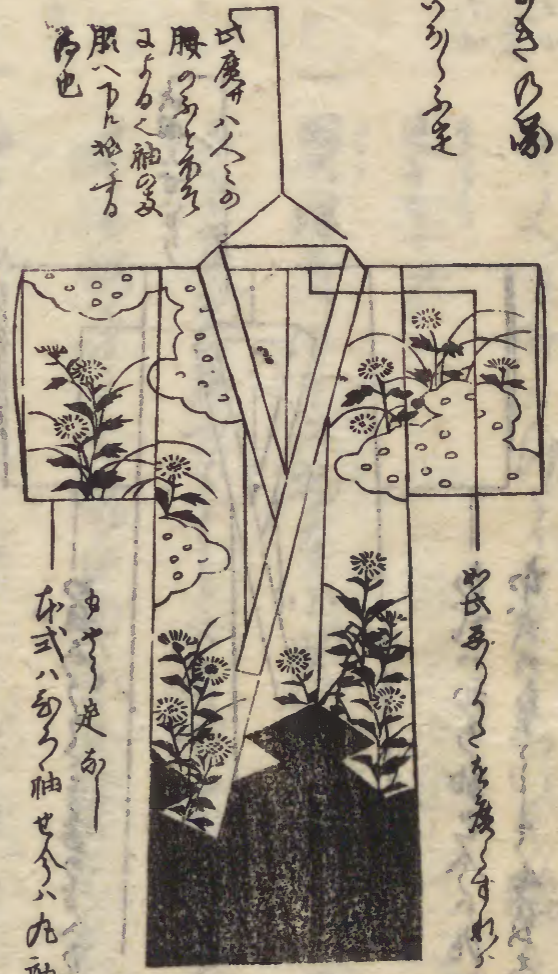
一 袴ありくさるるまらばりきぬふ也腰の方をくひし志



袴式ハ白くくさるるまらばりきぬふ也腰の方をくひし志

色ハ白し今ハ白くくさるるまらばりきぬふ也腰の方をくひし志

あしきもの
あしきもの



以廣はんとの
腰のあしきもの
よりの袖のあ
しきもの

中々しき
衣式ハ袖の袖せハ九袖より用ふ也

あしきものを
あしきものを
あしきものを
あしきものを

一うちをきの物ふ地もんをけおりのある物也
記よるるるる

一天子の御紋も事上方の事也源平の合戦の比も
玉座幕あふ菊桐の御紋を付給ふ事ありあしき飲菊桐

奥順故実園書條
々々十九日
五月五日
アツキ
六月十日
裁後十日
故実園書云
ユカタヒラハ
九サラシノ
クハ軟正チコ
ナトハセヌナ
リ

元来ハ御装束の織紋あり武家共是紋の如く御幕も
由何れも付け用のわいぬ下 黄櫨染ト云御装束ハ桐
竹鳳凰麒麟の織紋あり赤色ト云御装束ハ桐竹の織紋
ある一何れ又窠中ハ葉の菊同菊カ草の織紋あり
凡人ハ紋ヲ道具のおろひあしき付ルハ人の物よきこれ以爲之天子の御物ハまさる

一十九布ト云事旧記ニ有子袋あしきする布之機を織者の
初系ハ筋を一か糸ト云 長サハ一疋の糸を
四十筋 七ツの布ト云ハ七ツの糸を織るを云一幅の徑糸式
るハ拾筋 二重ト云ハ五筋 十筋布ト云ハ十筋を織る
を云一幅の徑糸式 二重ト云ハ八筋を織るを云
十九の布ト云十九

職人歌合ノ奇也
其口寺ノ職人奇
合トハ別也

熊谷蓮性法師が
昇
古の禮ハあまの
うみとさ人風の
ゆる天ハさるら
ざりクモ
古今狂歌集ノ尺
えり

黄袍ヲ黄衣ト云
ナリ

紅戸ヨ
てハ福キクモ

○カゲアサギト
エハアサキノ黒
アル色ナリ

○カゲモエキト
エハモエキノ黒
アル色ナリ

春風桂川のあめをくぐりサの後の秋ナリ 袂も折る近衛信長

一 紙衣も古より あり源平盛衰記卷四十八法皇大原 入脚ノ条云々里一

液ツカ 表ラウニ 老尼の紙衣の上カキキヌ 濃き墨染の衣スミシメ をぞり

りリ 又又 白小袖白小袖 の怪アヤレゲ 麻アサ の衣紙キヌカミ の御フスマ

より具具 竹竹 の掉サホ 又又 熊谷熊谷 平家平家 七七 後建礼門院大原の

勇我物語卷十二云々さるるあどヨ二人ハうちりわさちあまの衣紙衣紙 のふすはをうさうけ

諸諸 物を修修 紙紙 のつるふ紙紙 の大大 あると云々此の物物 ありうらうら物物 あり

一 褂ウチキ 大褂ウチキ 小褂ウチキ 衣ウチキ 袖ウチキ 多ウチキ 事ウチキ 装束ウチキ 米ウチキ の部ウチキ 記ウチキ す

一家の紋一家 云々事源平盛衰記卷三十六熊谷 熊谷熊谷 禰禰 の虫カキ 垂垂 家

の紋紋 ありあり 旭旭 又又 寓寓 生生 云々云々 縁縁 云々云々

一 ありあり 色色 二二 ありあり 浅黄浅黄 と浅蔥浅蔥 二色二色 也先先 浅黄浅黄 と黄

うう 黄色黄色 也無品親王無品親王 其其 御袍御袍 の色色 云々云々 用用 云々云々 考考 袍袍 と云

以以 事事 也也 無品親王無品親王 の御袍御袍 の色色 云々云々 浅蔥浅蔥 と云云 青青 也水色水色 と云

白白 襖襖 と云云 中中 古古 以来以来 素青素青 の家家 ノ代代 リニ用用 あり

白白 襖襖 と云云 中中 古古 以来以来 素青素青 の家家 ノ代代 リニ用用 あり

白白 襖襖 と云云 中中 古古 以来以来 素青素青 の家家 ノ代代 リニ用用 あり

白白 襖襖 と云云 中中 古古 以来以来 素青素青 の家家 ノ代代 リニ用用 あり

白白 襖襖 と云云 中中 古古 以来以来 素青素青 の家家 ノ代代 リニ用用 あり

白白 襖襖 と云云 中中 古古 以来以来 素青素青 の家家 ノ代代 リニ用用 あり

白白 襖襖 と云云 中中 古古 以来以来 素青素青 の家家 ノ代代 リニ用用 あり

白白 襖襖 と云云 中中 古古 以来以来 素青素青 の家家 ノ代代 リニ用用 あり

禁裏御神事の時
 奥州信六郡
 白布は山あらの
 とぬすりたる物
 あり

奥州信六郡
 白布は山あらの
 とぬすりたる物
 あり

色をいつくすりたる色ありありたるを好くみそりたる也
 一すり衣の事ありぶもぢぢり花ぢり衣あり款五すあり
 是の極は草木花鳥あり形を周刻して初免のり紋布は
 色とりそれあぐこの上を打すのりを付る縞布のさへり

おたぬ為也のりをあきしと付並その上は布又ハ縞あり
 たりぬすり消ゆる新いつくせは本くこの不為ある也そのを
 藍の葉又ハ色々の花を銘は布は色とり縞あり

一鳴すりの虫垂 盛衰記巻五小松 教訓の条あり
 と云ハ鳴す洲の形を前記
 めくすりたるを也 今時節を鳴すのりを鳴すのりあり
 鳴すりともさ節のりあり今依記あり

